

Ⅱ 現代っ子高校生の歴史認識と授業内容の改造

都 築 亨

1 意図と問題の所在

歴史の授業を高校および中学生を相手にして30年、十年一日という言葉があるが、日本史、世界史あるいは中学校の歴史的分野で、それぞれ指導要領の改訂ごとにかんがりの内容の変化を持たせながら、大体において同じような歴史の学習内容を生徒相手に説きつづけてきた。これは大変なことであったと、今思っている。なぜならば、これだけ長い間同一学習内容が原則として教えられつづけている教科は他にはあまりないし、社会科にしてみても、「地理」は「人文地理」・「地理A」・「地理B」・「系統地理」・「世界地誌」・そして現「地理」と変わってくるごとにその内容は変転をきわめ、「一般社会」・「社会」・「倫理・社会」・「政治・経済」・「倫理」・「現代社会」と社会認識教科内容は、指導要領の変わるごとに大きくその性格を変えてきた。戦後40年、厳密に言えば、日本史・世界史が成立した昭和26年から36年間、「歴史」の教科内容ほど安定して教えられつづけてきた教科は珍しいといわなければならない。

にもかかわらず、その「歴史」の内容にして、このごろ徐々にはあるが確実に変わりざまを見せてきている。「世界史」の内容が世界史発展の系統的追及から「文化圏学習」に変わったというならば、指導要領による変容と言えるし、30年の間にみられた大きな歴史学研究成果が高校、中学の教育内容にも反映していることも確かである。個々の表現にしても「帰化人」が「渡来人」に、「東方見聞録」が「世界の記述」に変わったくらいの変化は他の教科にもみられる程度のものである。しかし、いま私の気にしているのはそうしたノエシスの変貌よりも、ノエマ的側面つまり受け止める側の生徒の意識の変わりざまである。他の教科におけるよりも歴史的内容に対するそれの方がかなり明瞭に変貌をみせていると思う。

前提として仮説にあげたのは次のような点である。

(1) 受験戦争の激化、とくに歴史的内容では常識的に暗記教科と考えられ、歴史の勉強を暗記技術として受け止める傾向があるのではないか。

(2) テレビその他に、クイズ番組が幅をきかせており、その影響でかなり歴史に興味を持つ人がふえてい

るが、又そのように歴史をクイズ的にうけとめる人々も多くなってきている。

(3) 日教組の教研大会で報告されていたように、小学校のころから嫌いな教科として「歴史」をあげる生徒が多くなってきている。それは(1)の暗記教科としての認識の一般化と関係があるが、それを裏付けるような現実、つまりそれほど現実の学校の授業が受験、暗記本位になり、生徒の興味からかけ離れたものになっているということである。

(4) 歴史というものの自体、過去の事実そのものにこのごろの生徒の関心が遠くなっているということである。伝統とか過去とかにほとんど価値を認めようとしない、言ってみれば現代っ子気質と言うべき傾向の一般化が見られる。

(5) ヨーロッパ人が伝統とか過去の遺産を大切にすると、そうした気持ちが日本人一般に欠けて来たのはこのごろの生活の現代化、つまり高度成長の反映であるとともに、いまわしい過去を棄て去ろうとする気持ちが戦中派、戦後派の父母層にあり、それが自分の過去の時代に自信を持たせにくいという結果になっている。そして、そのことが子供たちの伝統軽視に拍車をかけているのではないか。

本稿で特に問題としたいのは(4)(5)にかかわることである。生徒の歴史についての受け止めかたが一昔前と比べて全く変わってきているのに、にもかかわらず十年一日の歴史内容を授業で押しつけているとしたら、それは歴史の正しい認識にはつながらず、教師の言葉だけが生徒の頭の上をかすめるだけに終わってしまうことであろう。そうだとしたらむしろ暗記教科と割り切った方が賢明である。私は「歴史」の授業はただ暗記させるだけのものと思いたくはないし、(4)、(5)に指摘したような事態はやはり好ましくないと思う。

現代っ子というのはそういうものと割り切って、「授業」は自分の思うように気ままにやってゆくのも一つの方法である。しかし、それで授業が成り立っていると云えるのだろうか。生徒がどう思おうと、これだけは「国民教育」として是非教えなければならないこと、「将来のために」学習させておきたいこと、そういう内容は無論ある。本校で「世界史」を必修させて

いる意味もそれである。しかし、それにしても生徒の受けとめ方、意識の在り方を無視して授業を進めることは出来ない。「現代っ子」の歴史意識をいま問題にしようと考えたのは教育の現場から、日本史、世界史の内容を策定するさいの拠り所にしたということからである。

2 「歴史」についての一般的興味、関心の実態

まず確かめておきたいのは、一般的にみてこのころの高校生がどの程度の歴史的興味、関心を持っているかということである。本校と県内のS高校の2年、3年生を対象としてアンケート調査をした結果は次の通りである。

(1) 歴史についての興味・関心の程度

①日本の歴史について

- A. 歴史的な問題について色々強い興味を持っている
- B. 歴史は嫌いではないし、普通よりは関心がある
- C. 特に興味があるのでもないが、嫌いでもない
- D. あまり興味はない。どちらかといえば苦手なほう
- E. 歴史には全く興味がない、嫌い

S高 3年	S高 2年	S高 全	附属高3年	附属高2年	附属高 全	男子計	女子計	合計						
36.8	15.4	15.4	21.9	28.9	18.3	19.1	11.1	24.4	15.6	21.6	13.1	25.3	15.6	20.3
36.8	44.2	50.0	48.8	44.4	46.2	27.7	27.8	17.1	40.0	22.7	33.3	33.7	39.6	36.8
18.4	21.1	17.3	14.6	17.8	18.3	23.4	29.6	34.1	24.4	28.4	27.3	23.0	22.9	23.0
2.6	19.2	3.8	14.6	3.3	17.2	12.8	18.5	19.5	13.3	15.9	16.2	9.6	16.7	13.2
5.3	0	3.8	0	4.4	0	17.0	13.0	4.9	6.6	11.4	10.1	7.9	5.2	6.5

②ヨーロッパの歴史について

- A. 歴史的な問題について色々強い興味を持っている
- B. 歴史は嫌いではないし、普通よりは関心がある
- C. 特に興味があるのでもないが、嫌いでもない
- D. あまり興味はない。どちらかといえば苦手なほう
- E. 歴史には全く興味がない、嫌い

S高 3年	S高 2年	S高 全	附属高3年	附属高2年	附属高 全	男子計	女子計	合計						
5.3	1.9	9.6	2.4	7.8	2.2	19.1	5.6	12.1	11.1	15.9	8.1	11.8	5.2	8.4
23.7	23.0	26.9	31.7	25.6	26.9	25.5	29.6	24.4	28.9	25.0	29.3	25.3	28.1	26.8
23.7	38.5	44.2	39.0	35.6	38.7	21.3	37.0	24.4	26.7	22.7	32.3	29.2	35.4	32.4
28.9	30.7	7.7	26.8	16.7	29.0	14.9	16.7	29.3	20.0	21.6	18.2	19.1	23.4	21.4
18.4	5.8	9.6	0	13.3	3.2	19.1	11.1	9.8	8.9	14.8	10.1	14.0	6.8	10.3

③アフリカ・西アジアの歴史

- A. 歴史的な問題について色々強い興味を持っている
- B. 歴史は嫌いではないし、普通よりは関心がある
- C. 特に興味があるのでもないが、嫌いでもない
- D. あまり興味はない。どちらかといえば苦手なほう
- E. 歴史には全く興味がない、嫌い

S高 3年	S高 2年	S高 全	附属高3年	附属高2年	附属高 全	男子計	女子計	合計						
2.6	0	3.8	0	3.3	0	8.5	5.6	2.4	2.2	5.7	4.0	4.5	2.0	3.2
7.9	11.5	13.5	9.8	11.1	10.8	12.8	13.0	14.6	13.3	13.6	13.1	12.4	12.0	12.2
34.2	38.5	55.8	43.9	46.7	40.9	25.5	42.6	46.3	46.7	35.2	44.4	41.4	42.7	41.9
36.8	34.6	15.4	41.5	24.4	37.6	29.8	24.1	24.4	26.7	27.2	25.3	25.8	31.2	28.6
18.4	11.5	9.6	4.9	13.3	8.6	23.4	14.8	12.2	11.1	18.2	13.1	15.7	10.9	13.2

④中国・インドの歴史

- A. 歴史的な問題について色々強い興味を持っている
- B. 歴史は嫌いではないし、普通よりは関心がある
- C. 特に興味があるのでもないが、嫌いでもない
- D. あまり興味はない。どちらかといえば苦手なほう
- E. 歴史には全く興味がない、嫌い

S高 3年	S高 2年	S高 全	附属高3年	附属高2年	附属高 全	男子計	女子計	合計						
7.9	1.9	7.7	4.9	7.8	3.2	19.1	5.6	7.3	11.1	13.6	8.1	10.7	5.7	8.1
18.4	23.0	19.2	29.3	18.9	25.8	17.0	27.8	19.5	13.3	18.2	21.2	21.3	23.4	22.4
28.9	36.5	28.8	36.6	38.9	36.6	25.5	37.0	36.6	37.8	30.7	37.4	34.8	37.0	35.9
31.5	28.8	19.2	24.4	24.4	26.9	21.3	18.5	26.8	26.7	23.9	22.2	24.2	24.5	24.3
13.2	9.6	7.7	4.9	10.0	7.5	17.0	11.1	9.8	8.9	13.6	10.1	11.8	8.9	10.3

⑤テレビ・ドラマの中では

- A. 歴史的な問題について色々強い興味を持っている
- B. 歴史は嫌いではないし、普通よりは関心がある
- C. 特に興味があるのでもないが、嫌いでもない
- D. あまり興味はない。どちらかといえば苦手なほう
- E. 歴史には全く興味がない、嫌い

S高 3年	S高 2年	S高 全	附属高3年	附属高2年	附属高 全	男子計	女子計	合計						
26.3	28.8	23.1	7.3	24.4	19.4	14.9	13.0	12.2	13.3	13.6	13.1	19.1	16.1	17.6
21.0	30.8	30.7	43.9	26.7	36.6	34.0	24.1	24.4	42.2	29.5	32.3	28.1	33.9	31.1
34.2	38.5	34.6	34.1	34.4	36.6	23.4	35.2	34.1	26.7	28.4	31.3	31.5	33.9	32.7
10.5	11.5	5.8	12.2	7.8	11.8	8.5	16.7	19.5	13.3	13.6	15.2	10.7	13.5	12.2
7.9	0	5.8	2.4	6.6	1.1	21.3	11.1	9.8	4.4	15.9	8.1	11.2	4.7	7.8

一般的にいえば、現在の高校生の歴史的興味、関心は特に低下しているとは言えないであろう。特に日本の歴史についての興味はかなり強く、以前でもこれ以上の%が得られていたかどうか。目につくのはヨーロッパ・中国の歴史への関心はかなり低く(ヨーロッパと中国との歴史への関心の持たれかたが%で似かよっているのは注目したい) アフリカ・西アジアへの歴史的関心にいたっては殆んどないという状態である。これは両校通じてそうである。アジア・アフリカ

への関心が叫ばれている現在、この事態は気になる所である。

テレビ・ドラマでの「歴史的なもの」の関心はまずまずで、日本史への興味の示し方とかなり近い。テレビでの「歴史もの」というのはかなりの程度日本史の舞台、時代劇なのかもしれない。

(2) 今までに習った歴史の中で、内容からみて興味のあったことは何だったか。

(2) 今までに習った歴史の内容で興味があったこと

ア、昔の美術や建築	5.3	9.6	15.4	31.7	11.1	19.4	14.9	25.9	29.3	24.4	21.6	25.3	16.3	22.4	19.5
イ、古墳や遺跡、城など	13.2	23.1	21.2	31.7	17.8	26.9	19.1	29.6	22.0	13.3	20.5	22.2	13.1	24.5	21.9
ウ、昔の風俗や文化について	13.3	48.0	19.2	46.3	16.6	47.3	10.6	46.3	26.8	51.1	18.2	48.5	17.4	47.9	33.2
エ、政治のながれについて	42.1	17.3	23.1	14.6	31.1	16.1	21.3	18.5	19.5	20.0	20.5	19.2	25.8	17.7	21.6
オ、現代の社会の動きについて	7.9	0	5.8	0	6.6	0	10.6	5.6	7.3	8.9	9.1	7.1	7.9	3.6	5.7
カ、経済や社会の動き	18.4	3.8	1.9	7.3	8.9	5.4	8.5	9.3	17.1	6.7	12.5	8.1	10.7	6.8	8.6
キ、文学・古典について	13.2	28.8	1.9	2.4	6.6	17.2	2.1	13.0	9.8	17.8	5.7	15.2	6.2	16.1	11.4
ク、外交や貿易の発展	7.9	9.6	3.8	2.4	5.6	6.5	10.6	7.4	4.9	11.1	8.0	9.1	6.7	7.8	7.3
ケ、科学や技術の発展	7.9	1.9	15.4	7.3	12.2	4.3	23.4	5.6	24.4	4.4	23.9	5.1	18.0	4.7	11.1
コ、郷土の偉人、この地方の歴史	7.9	9.6	13.5	9.7	11.1	9.7	10.6	9.3	2.4	11.1	6.8	10.1	8.4	9.9	9.5
サ、戦争や合戦の物語	47.4	44.2	73.1	43.9	62.2	44.1	46.8	22.2	26.8	26.7	37.5	24.2	50.0	33.9	41.6
シ、交通通信	2.6	0	3.8	2.4	3.3	1.1	8.5	1.9	4.9	0	6.8	1.0	5.1	1.0	3.0

2校間の差もかなり気になる点であるが、男女の差も歴然としている。高校間の差についてはその条件について検討しないと何とも言えないし、他校のデータも今一つほしい所である。

一般的には男女の関心の違いを問題にすべきであろう。

(3) 歴史上の人物についての関心、好き、嫌い、

(① ②については本校生徒2年生のみ)

① 江戸時代の人物についての好き嫌い (実数)

	好きな人物	嫌いな人物
ア、徳川吉宗	39	3
イ、徳川綱吉	2	35
ウ、松平定信	17	9
エ、田沼意次	5	30
オ、新井白石	9	9
カ、荻原重秀	0	11
キ、天草四郎時貞	25	5
ク、由井正雪	11	13
ケ、林 羅山	6	11
コ、俵屋宗達	3	3
サ、河村瑞軒	0	7
シ、三井高利	5	14
ス、井原西鶴	19	4
セ、近松門左衛門	17	1
ソ、松尾芭蕉	29	0
タ、尾形光琳	6	5
チ、本居宣長	16	4
ツ、石田梅岩	4	7
テ、間宮林蔵	4	28
ト、シーボルト	25	5
ナ、ラックスマン	4	6

② 明治維新の人物について

(実数)

	知名度	好きな人物	嫌いな人物
ア、徳川齊昭	36	0	6
イ、一橋慶喜	37	6	11
ウ、島津斉彬	35	0	9
エ、井伊直弼	48	4	21
オ、阿部正弘	28	4	3
カ、吉田松陰	41	14	4
キ、勝 海舟	44	14	4
ク、島津久光	14	2	6
ケ、三条実美	12	0	1
コ、西郷隆盛	49	23	4
サ、大久保利通	43	3	4
シ、高杉晋作	37	12	0
ス、木戸孝允	31	2	1
セ、坂本竜馬	50	34	0
ソ、岩倉具視	46	4	5
タ、山内豊信	6	0	1
チ、後藤象二郎	1	1	0
ツ、大隈重信	46	5	8
テ、板垣退助	45	12	6
ト、山県有朋	17	0	0
ナ、江藤新平	11	1	1
ニ、大村益次郎	16	2	3
ヌ、波沢栄一	4	1	1
ネ、福沢諭吉	50	22	6
ノ、岩崎弥太郎	5	2	1
ハ、中江兆民	25	1	5
ヒ、本木昌造	1	1	0
フ、新島 襄	12	1	1
ヘ、片岡健吉	4	0	0
ホ、伊藤博文	50	20	7
マ、松方正義	3	0	3
ミ、河野広中	0	0	0
ム、三島通庸	0	0	0
メ、徳富蘇峰	0	0	0
モ、三宅雪嶺	4	0	2
ヤ、二葉亭四迷	38	8	1
ニ、井上 馨	15	0	3
ヨ、陸奥宗光	5	0	0

現代っ子高校生の歴史認識と授業内容の改造

ワ、森 有礼	5	0	1	あ、森 鷗外	48	23	2
ラ、坪内逍遙	30	1	0	い、フェノロサ	10	1	1
リ、井上 綾	12	0	1	う、ベリー	47	4	14
ル、尾崎紅葉	22	0	1	え、ハークス	3	0	0
レ、幸田露伴	22	3	3	お、ブーチャーチン	14	0	3
ロ、岡倉天心	12	1	1	か、謝花 昇	0	0	0

③明治時代の人物
1) 知名度

	S 高3年		S 高2年		S 高全		附属高3年		附属高2年		附属高全		男子計	女子計	合計
ア、福沢諭吉	100	98.1	98.1	100	98.9	98.9	95.7	96.3	97.6	97.8	96.6	96.9	97.8	97.9	97.8
イ、岩崎弥太郎	76.3	54.0	19.2	17.1	43.3	37.6	59.6	25.9	56.1	57.8	58.0	40.0	50.6	39.1	44.6
ウ、中江兆民	71.0	63.5	25.0	19.5	44.4	44.1	76.6	72.2	75.6	80.0	76.1	75.8	60.1	60.4	60.3
エ、西郷隆盛	100	98.1	98.1	100	98.9	98.9	95.7	96.3	97.6	97.8	96.6	97.0	97.8	97.9	97.8
オ、大久保利通	97.3	98.1	94.2	90.2	95.6	94.6	80.9	90.7	95.1	93.3	87.5	91.9	91.6	93.2	92.4
カ、渋沢栄一	60.5	40.4	3.8	2.1	27.7	23.7	40.4	20.4	46.3	51.1	43.2	34.3	35.4	29.2	32.2
キ、新島 襄	76.3	48.1	21.2	4.9	44.4	29.0	46.8	22.2	48.8	48.9	47.7	34.3	46.1	31.8	38.6
ク、河野広中	18.4	19.2	3.8	2.4	10.0	11.8	36.2	20.4	19.5	17.8	28.4	19.2	19.1	15.6	17.3
ケ、二葉亭四迷	97.3	100	80.8	85.4	87.8	93.5	85.1	96.3	73.2	66.7	79.5	82.8	83.7	88.0	85.9
コ、板垣退助	100	100	96.2	100	97.8	100	87.2	88.9	95.1	97.8	90.9	92.9	94.4	96.4	95.4
サ、森 鷗外	100	100	96.2	97.6	97.8	98.9	89.4	88.9	97.6	97.8	93.2	92.9	95.5	95.8	95.7
シ、木戸孝允	97.3	92.3	61.5	56.1	76.7	76.3	72.3	75.9	90.2	91.1	80.7	82.8	78.7	79.7	79.2
ス、森 有礼	73.7	48.1	7.7	2.4	35.6	28.0	70.2	79.6	51.2	55.6	61.4	68.7	48.3	49.0	48.6
セ、陸奥宗光	89.5	53.8	36.5	22.0	58.9	39.8	57.4	44.4	48.8	31.1	53.4	38.4	56.2	39.1	47.3
ソ、島崎藤村	100	100	96.2	97.6	97.8	98.9	89.4	94.4	95.1	97.8	92.0	96.0	94.9	97.4	96.2
タ、樋口一葉	89.5	98.1	67.3	80.5	76.7	90.3	85.1	96.3	68.3	84.4	77.3	90.9	77.0	90.6	84.1
チ、志賀 潔	44.7	30.8	38.5	22.0	41.1	26.9	34.0	31.5	29.3	33.3	31.8	32.3	36.5	29.7	33.0
ツ、夏目漱石	100	100	98.1	100	98.9	100	89.4	94.4	97.6	95.6	93.2	94.9	96.1	97.4	96.8
テ、伊藤博文	97.3	98.1	98.1	100	97.8	98.9	91.5	96.3	97.6	95.6	94.3	96.0	96.1	97.4	96.8
ト、勝 海舟	92.1	86.5	73.1	56.1	81.1	73.1	83.0	68.5	78.0	88.9	80.7	77.8	80.9	75.5	78.1
ナ、岩倉具視	100	100	92.3	82.9	95.6	92.5	85.1	96.3	95.1	88.9	83.8	92.9	92.7	92.7	92.7
ニ、大隈重信	100	98.1	84.6	90.2	91.1	94.6	83.0	92.6	95.1	88.9	88.6	90.1	89.9	92.7	91.4
ヌ、山県有朋	89.5	73.1	23.1	2.4	51.1	41.9	68.1	81.5	60.9	62.2	64.8	72.7	57.9	57.8	57.8
ネ、坪内逍遙	97.3	96.2	51.9	53.7	71.1	77.4	70.2	90.7	46.3	42.2	59.0	68.7	65.2	72.9	69.2
ノ、幸徳秋水	73.7	67.3	23.1	26.8	44.4	49.5	68.1	88.9	36.6	17.8	53.4	56.6	48.9	53.1	51.1
ハ、与謝野晶子	100	100	92.3	100	95.6	100	85.1	96.3	92.7	95.6	88.6	96.0	92.1	97.9	95.1
ヒ、片岡健吉	55.3	34.6	9.6	12.2	28.9	24.7	40.4	40.7	29.3	55.6	35.2	47.5	32.0	36.5	34.3
フ、江藤新平	76.3	34.6	15.4	2.4	41.1	20.4	42.6	37.0	56.1	71.1	48.9	52.5	44.9	37.0	40.8
ヘ、北里柴三郎	68.4	59.6	73.1	58.5	71.1	59.1	61.7	46.3	58.5	60.0	60.2	52.5	65.7	55.7	60.5
ホ、安 重 根	2.6	3.8	0	0	1.1	2.2	21.3	14.8	4.9	0	13.6	8.1	7.3	5.2	6.2
マ、新渡戸稲造	63.1	40.1	53.8	29.3	57.8	35.5	70.2	50.0	65.9	71.1	68.2	60.0	62.9	47.9	55.1

2)好きな(尊敬する)

人物(実数)

	S高 3年	S高 2年	S高 全	附属高 3年	附属高 2年	附属高 全	男子計	女子計	合計						
ア, 福沢諭吉	20	31	30	22	50	53	22	17	16	22	38	39	88	92	180
イ, 岩崎弥太郎	3	0	3	0	6	0	7	1	5	3	12	4	18	4	22
ウ, 中江兆民	0	0	0	1	0	1	5	1	3	4	8	5	8	6	14
エ, 西郷隆盛	13	17	27	26	40	43	11	14	20	17	31	31	71	74	145
オ, 大久保利通	4	2	2	1	6	3	2	5	4	1	6	6	12	9	21
カ, 渋沢栄一	1	0	0	0	1	0	2	0	2	0	4	0	5	0	5
キ, 新島 襄	6	0	0	1	6	1	4	2	1	1	5	3	11	4	15
ク, 河野広中	0	0	1	1	1	1	3	2	0	1	3	3	4	4	8
ケ, 二葉亭四迷	1	5	2	4	3	9	1	6	5	4	6	10	9	19	28
コ, 板垣退助	5	11	11	6	16	17	8	5	6	5	14	10	30	27	57
サ, 森 鷗外	21	19	12	9	33	28	6	21	13	19	19	40	52	68	120
シ, 木戸孝允	7	2	6	0	13	2	4	1	2	4	6	5	19	7	26
ス, 森 有礼	1	0	0	0	1	0	2	4	3	2	5	6	6	6	12
セ, 陸奥宗光	5	1	0	0	6	1	4	2	0	0	4	2	10	3	13
ソ, 島崎藤村	8	24	6	16	14	40	7	17	18	25	24	42	38	82	120
タ, 樋口一葉	3	17	1	6	4	23	4	15	3	10	7	25	11	48	59
チ, 志賀 潔	1	1	0	1	1	2	0	0	2	0	2	0	3	2	5
ツ, 夏目漱石	22	38	32	33	54	71	15	28	29	34	44	62	98	133	231
テ, 伊藤博文	9	16	24	10	33	26	9	7	10	8	19	15	52	41	93
ト, 勝 海舟	9	7	11	5	20	12	10	3	11	9	21	12	41	24	65
ナ, 岩倉具視	4	11	11	2	15	13	7	2	3	1	10	3	25	16	41
ニ, 大隈重信	3	4	4	0	7	4	0	4	3	0	3	4	10	8	18
ヌ, 山県有朋	1	0	3	0	4	0	2	1	0	0	2	1	6	1	7
ネ, 坪内逍遙	2	3	0	1	2	4	3	1	2	0	5	1	7	5	12
ノ, 幸徳秋水	2	1	0	1	2	2	4	4	2	0	6	4	8	6	14
ハ, 与謝野晶子	9	31	4	28	13	59	2	23	7	32	9	55	22	114	136
ヒ, 片岡健吉	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	2	0	2
フ, 江藤新平	1	0	0	0	1	0	0	1	1	1	1	2	2	2	4
ヘ, 北里榮三郎	5	6	10	5	15	11	8	10	4	5	12	15	27	26	53
ホ, 安 重 根	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	0	2	0	2
マ, 新渡戸稲造	4	5	7	1	11	6	5	2	3	4	8	6	19	12	31

現代っ子高校生の歴史認識と授業内容の改造

3) 嫌いな (非難する) 人物 (実数)

ア, 福沢諭吉
 イ, 岩崎弥太郎
 ウ, 中江兆民
 エ, 西郷隆盛
 オ, 大久保利通
 カ, 渋沢栄一
 キ, 新島 襄
 ク, 河野広中
 ケ, 二葉亭四迷
 コ, 板垣退助
 サ, 森 鷗外
 シ, 木戸孝允
 ス, 森 有礼
 セ, 陸奥宗光
 ソ, 島崎藤村
 タ, 樋口一葉
 チ, 志賀 潔
 ツ, 夏目漱石
 テ, 伊藤博文
 ト, 勝 海舟
 ナ, 岩倉具視
 ニ, 大隈重信
 ス, 山県有朋
 ネ, 坪内逍遙
 ノ, 幸徳秋水
 ハ, 与謝野晶子
 ヒ, 片岡健吉
 フ, 江藤新平
 ヘ, 北里柴三郎
 ホ, 安 重 根
 マ, 新渡戸稲造

	S 高3年	S 高2年	S 高全	附属高3年	附属高2年	附属高全	男子計	女子計	合計						
ア	3	6	8	2	11	8	4	3	9	8	13	11	24	19	43
イ	4	9	5	0	9	9	1	1	0	1	1	2	10	11	21
ウ	4	6	2	1	6	7	6	5	5	10	11	15	17	22	39
エ	7	8	7	5	14	13	6	6	3	7	9	13	23	26	49
オ	14	17	11	5	25	22	6	5	17	19	23	24	48	46	94
カ	1	2	2	1	3	3	2	1	3	4	5	5	8	8	16
キ	1	5	3	0	4	5	4	1	1	1	5	2	9	7	16
ク	3	0	2	0	5	0	2	3	0	1	2	4	7	4	11
ケ	0	6	5	4	5	10	3	3	1	1	4	4	9	14	23
コ	11	14	8	6	19	20	10	9	21	20	31	29	50	49	99
サ	2	9	9	2	11	11	3	1	5	2	8	3	19	14	33
シ	7	6	4	3	11	9	5	3	7	12	12	15	23	24	47
ス	2	8	2	0	4	8	2	0	5	0	7	0	11	8	19
セ	7	3	1	0	8	3	5	3	3	1	8	4	16	7	23
ソ	0	2	7	3	7	5	4	1	0	0	4	1	11	6	17
タ	1	3	2	3	3	6	5	1	1	0	6	1	9	7	16
チ	2	4	1	0	3	4	0	0	0	1	0	1	3	5	8
ツ	0	6	7	0	7	6	3	0	1	1	4	1	11	7	18
テ	14	6	9	7	23	13	12	10	14	13	26	23	49	36	85
ト	2	6	2	1	4	7	4	4	4	4	8	8	12	15	27
ナ	10	13	9	6	19	19	5	3	14	13	19	16	38	35	73
ニ	10	11	6	5	16	16	6	8	16	23	22	31	38	47	85
ス	10	14	5	1	15	15	11	9	4	9	15	18	30	53	83
ネ	1	5	1	1	2	6	2	2	2	2	4	4	6	10	16
ノ	2	5	3	1	5	6	4	7	3	1	7	8	12	14	26
ハ	1	3	5	2	6	5	7	1	7	0	14	1	20	6	26
ヒ	1	0	0	0	1	0	3	4	2	2	5	6	6	6	12
フ	6	0	1	0	7	0	3	4	6	4	9	8	16	8	24
ヘ	1	0	0	1	1	1	2	0	2	1	4	1	5	2	7
ホ	3	0	0	0	3	0	3	1	0	0	3	1	6	1	7
マ	4	0	3	2	7	2	2	4	2	1	4	5	11	7	18

3 日本と世界の歴史と 文明についての認識

前掲のアンケート調査でやや気になったのは、日本の歴史についてはかなりの関心があるのに、中国、西アジア、アフリカに対する高校生の関心の低さである。

中学の歴史的分野が日本史中心にかわり、世界への歴史的視野を欠いてきたのか、それとも一般的な近ごろのラジオ、テレビの影響か。先づ、現在の高校生の目にうつる「文明」とは何か「最も素晴らしい文明」といった時、何を意識するか、質ねた結果は次の通りである。

(1)

	S 高3年		S 高2年		S 高全		附属高3年		附属高2年		附属高全		男子計	女子計	合計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子			
ア、中国の黄河文明	18.4	25.0	13.4	7.3	15.6	17.2	10.6	11.1	34.1	31.1	21.6	20.2	18.5	18.8	18.5
イ、インダス文明	5.3	13.5	9.6	17.1	7.7	15.1	12.8	7.4	14.6	13.3	13.6	10.1	10.7	12.5	11.6
ウ、メソポタミア文明	15.8	9.6	9.6	17.1	12.2	12.9	23.4	13.0	19.5	26.7	21.6	19.2	16.9	16.1	16.5
エ、エジプト文明	39.5	63.5	61.5	56.1	52.2	60.2	42.6	46.3	53.7	82.2	47.7	62.6	50.0	61.5	55.9
オ、インカ文明	15.8	1.9	15.4	24.4	15.5	11.8	14.9	9.3	26.8	20.0	20.5	14.1	18.0	13.0	15.4
カ、マヤ・アズテック文明	10.5	13.5	7.6	4.9	8.9	9.7	23.4	7.4	26.8	13.3	25.0	10.1	16.9	9.9	13.2
キ、ギリシア文明	34.2	55.8	38.5	41.5	36.7	49.5	38.3	53.7	56.1	66.7	46.6	60.0	41.6	54.7	48.4
ク、ヘレニズム文明	2.6	3.8	1.9	0	2.2	2.2	4.3	7.4	17.1	11.1	10.2	9.1	6.2	5.7	5.9
ケ、ローマ文明	15.8	28.8	19.2	12.2	17.8	21.5	21.3	24.1	43.9	42.2	31.8	32.3	24.7	27.1	25.9
コ、隋・唐文明	15.8	3.8	5.8	0	10.0	2.2	17.0	20.4	17.1	6.7	17.0	14.1	13.5	8.3	10.8
サ、ガンダーラ文明	10.5	7.7	11.5	14.6	11.1	10.8	14.9	5.6	17.1	15.6	15.9	10.0	13.5	10.4	11.9
シ、ゴシック・ロマネスク文化	10.5	0	0	0	4.4	0	4.3	7.4	0	0	2.3	4.0	3.4	2.1	2.7
ス、ルネサンス	26.3	44.2	42.3	46.3	35.6	45.2	36.2	61.1	24.4	64.4	30.7	62.6	33.1	54.2	44.1
セ、バロック・ロココ文化	0	13.5	1.9	2.4	1.1	6.5	12.8	7.4	2.4	4.4	8.0	6.1	4.5	6.3	5.4
ソ、イスラム文化	5.3	0	0	0	2.2	0	12.8	22.0	22.0	15.6	17.0	19.2	9.6	9.9	9.7
タ、明・清中国文化	10.5	3.8	3.8	0	6.7	2.2	4.3	1.9	4.9	0	4.5	1.0	5.6	1.6	3.5
チ、近代ヨーロッパ文化	13.1	11.5	13.5	24.4	13.3	17.2	21.3	7.4	24.4	4.4	22.7	6.1	18.0	11.5	14.6
ツ、中南米(ラテン)文化	5.3	0	1.9	2.4	3.3	1.1	6.4	5.6	7.3	0	6.8	3.0	5.1	2.1	3.5
テ、現代文化	13.1	15.4	34.6	26.8	25.6	20.4	25.5	9.3	41.5	15.6	33.0	12.1	29.2	16.1	22.4

エジプト ギリシア ローマ ルネサンスと追ってゆくと、多分にそれは西洋中心史観の反映といえそうである。近ごろの世界史の傾向からすれば逆行かもしれないが、情報化社会の文明の源はやはり「西洋」という所かもしれない。その憧れを無視してアジア・アフリカの目を導入したとしたら、世界史をますます混乱させる結果になるかもしれない。「シルク、ロード」の旅は放映されつづけたとしても、テレビの流れの中

では「エジプト文明、ピラミッド」「ヴェナス」「ルーブルの美術」がうけてきたことは間違いなさそうである。むしろそうした一般的風潮にしては「インカ文明」「マヤ・アズテック文明」の13~15%の比重は大きいというべきであろう。

(2) 日本文化の形成に最も大きな影響を及ぼした文明とその時期は。

(2) 日本文化の形成に最も大きな影響を及ぼしたのは

	S高 3年	S高 2年	S高 全	附属高3年	附属高2年	附属高全	男子計	女子計	合計						
ア、朝鮮半島から5~6世紀に入った文化	23.7	21.2	23.1	12.2	23.3	17.2	38.3	31.5	36.6	17.8	37.5	25.2	30.3	21.4	25.7
イ、遣隋使・遣唐使により中国から入った文化	39.8	67.3	46.2	41.5	43.3	55.9	61.7	70.4	85.4	95.6	72.7	81.8	57.9	69.3	63.8
ウ、大陸その他から紀元前後に入ってきた文化	5.3	9.6	13.5	17.1	10.0	12.9	21.3	14.8	12.2	4.4	17.0	10.1	13.5	11.5	12.4
エ、戦後末期にヨーロッパから伝わった文化	18.4	19.2	9.6	12.2	13.3	16.1	21.3	25.9	17.1	17.7	19.3	22.2	16.3	19.3	17.8
オ、明治以後ヨーロッパ・アメリカからの文化	60.5	61.5	65.4	73.2	63.3	66.7	59.6	48.1	87.8	82.2	72.7	63.6	68.0	65.1	66.5
カ、大戦後欧米その他から入ってきた文化	34.2	25.0	38.5	39.0	36.7	35.5	29.8	27.8	56.1	57.8	42.0	41.4	39.3	53.6	46.8

遣隋使・遣唐使の評価の高さは多分に中学の歴史の影響といってよさそうだし、明治以降の西洋文化も大きく意識されている。この中で2つといえば多分にそ

うなるであろう。

(3) それでは日本独自の文化(らしいもの)はいつごろから形成されたとうけとめているのだろうか。

(3)

ア、縄文時代
イ、弥生時代
ウ、古墳時代
エ、奈良時代
オ、平安時代
カ、鎌倉時代
キ、室町時代
ク、安土・桃山時代
ケ、江戸時代
コ、明治時代
サ、独自の文明は無い

S高 3年		S高 2年		S高 全		附属高3年		附属高2年		附属高 全		男子計	女子計	合計
男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子			
7.9	7.6	3.8	0	5.6	4.3	6.4	3.7	7.3	2.2	6.8	3.0	6.2	3.6	4.9
0	1.9	1.9	0	1.1	1.1	4.3	3.7	2.4	0	3.4	2.0	2.2	1.6	1.9
5.3	5.8	3.8	7.3	4.4	6.5	0	7.4	4.9	6.7	2.3	7.1	3.4	6.8	5.1
5.3	11.5	1.9	9.8	3.3	10.6	8.5	11.1	22.0	22.2	14.8	16.2	9.0	13.5	11.4
21.0	13.5	23.1	26.8	22.2	19.4	40.4	35.2	34.1	66.7	37.5	44.4	29.8	34.9	32.4
5.3	9.6	3.8	7.3	4.4	8.6	17.0	7.4	17.1	6.7	17.0	7.1	10.7	7.8	9.2
2.6	1.9	1.9	9.8	2.2	5.4	4.3	3.7	4.9	0	4.5	2.0	3.4	3.6	3.5
5.3	1.9	5.8	2.4	5.6	2.2	2.1	5.6	2.4	8.9	2.3	7.1	3.9	4.7	4.3
13.2	34.6	46.5	34.1	32.2	34.4	23.4	20.4	24.4	20.0	23.9	20.2	28.1	27.1	27.6
7.9	0	3.8	2.4	5.6	1.1	4.3	1.9	7.3	6.7	5.7	4.0	5.6	2.6	4.1
21.0	7.7	0	0	8.9	12.9	2.1	9.3	4.9	4.4	3.4	7.1	6.2	9.9	8.1

平安時代と江戸時代が日本の文化形成に大きくかかわっていることは客観的に肯けるにしても、同じ高校で、多分に同じ授業をうけている男子と女子との反応の違いはかなり気になるところであるが、(全体としては平均化されてくるのがまた不思議である)何に起因するものかたしかめてはいない。何が日本独自の文化といえるか、その点をアンケートすることが必要であったと反省している。

日本の文化に対し、あるいは伝統に対してどのような態度をとるべきだとか考えるか。その問いに対する表面的な回答は「日本の文化遺産をうけつぎ」「伝統をうけつぎ」「国の保護が必要」ということであり、「保護は干渉」「古いものは滅びればよい」というような否定的反応(「金閣」に放火した僧林承賢のような)は全くない。問題は一般的には「伝統」「文化」に敬意を表しながら、実際には「伝統芸術」に無関心だったり、文化財に落書きしたりする、そうした立てまえの意識と行動のズレが無視できない点にある。

4 「歴史」像、「ある時代」と同時代認識

歴史認識というのはもちろん、「歴史」についての興味、関心に止まるものではなく、「伝統」や「文化」

に対するポジティブな評価を下すことでもない。

ある「時代」をどのような時代として心にとめ、その「歴史」像を通じて「現代」を視る眼をつくり上げることが「歴史認識」につながるのではないだろうか。

歴史がいくつかの「時代」の時間的継続である限り常に変転する歴史の動きを「今」に映しながらかみめるという操作を「歴史学習」はくり返しているわけだし、今私が求めようとする歴史認識の形式も、そうしたことのトータルとしての「像」になるわけだろうが、その実態を「歴史」のすべての種々相について——いくつかの時代の政治とか、制度とか、人物、建築、彫刻、音楽、芸能、文化、風俗、生活……——つきとめることは不可能に属する。

◆ 8世紀の日本と世界

とりあえず、古代(8世紀)について、生徒たちがどのようにうけとめているか質問紙でのアンケート項目に対する回答を通じて考えてみたい。

8世紀といったのは、日本の古代史の中で、平城京の最盛期であり、又律令制を唐からうけ入れ、ようやく日本の「歴史像」がはっきりしてくる時代であると考えたからである。その日本を生徒達はどのような「時代」としてうけとめ、「世界」をどうみているのか。

(4) 8世紀なかばの日本はどのような状態だったか。

ア、「あおによし奈良の都は」整備された都
イ、浮浪・逃亡続出、三世一身の法・墾田永年私財
ウ、国域拡大し、遣唐使により海外文化流入
ニ、貴族の陰謀相次ぎ、国分寺・東大寺造営
オ、生倉院の大陸文化、天平文化の最盛期

S高 3年		S高 2年		S高 全		附属高3年		附属高2年		附属高 全		男子計	女子計	合計
男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子			
5	11	5	8	10	19	2	11	16	12	18	23	28	42	70
15	21	22	12	37	33	25	14	22	19	47	33	84	66	150
1	4	3	2	4	6	5	6	6	7	11	13	15	19	34
6	11	11	9	17	20	12	20	9	13	21	33	38	53	91
7	8	9	10	16	18	9	6	8	13	17	19	33	37	70

「奈良時代」を「よき時代」として頭にとめているア、ウ、オ、のトータルとしての％は42.0、「逃亡農民、貴族の陰謀」の多い「大変な時代」としての認識は58.0％、一般的にはこれはマトモでない反応である。小学校、中学校の歴史ではやはり「あおによし奈良の都は咲く花の、匂うが如く今さかりなり」というイメージで扱えられる時代である。それにしてはこの評価はきびしい評価である。高校での「日本史」学習の成果といえるのだろうか(附属高の2年生は古代をまだ学習していない)それにしては、男女、2・3年の差の態様は複雑である。浮浪逃亡相つぎ、三世一身の詔を発しても効なく、広嗣の乱、長屋王の乱で政治は

混乱し、天然痘で藤原四兄弟相ついで亡くなり、東大寺に大仏を造営しながら、聖武天皇自からは、都を転々とかえなければならなかった。その平城京のカゲの部分をもどのように生徒たちにつかませるかが歴史認識の深まりというものになってゆく。しかし、それが充分にわかった上で、天平の文化、正倉院御物にみられる国際的なひろがりをするのぶことも大切なことであろう。

奈良の都の「いまさかり」のころ、世界はどのあたりが繁栄していただろうか。「最も栄えていた」と感ずるのはどこか質ねてみた結果は次の通りである。

(5) そのころの世界で最も栄えていたのはどこか。

- ア、唐では長安の都が栄え開元の治の盛時
- イ、アッパース朝のハルン・フル・ラッドの全盛
- ウ、フランク王国、ツール・ポアチエの勝利
- エ、ビザンツ帝国レオ3世の偶像禁止令

S高	3年	S高	2年	S高	全	附属高3年	附属高2年	附属高	全	男子計	女子計	合計		
17	22	36	29	53	51	19	23	27	28	46	51	99	102	201
5	16	5	3	10	19	10	14	11	20	21	34	31	53	84
7	9	8	7	15	16	12	6	18	14	30	20	45	36	81
3	7	1	1	4	8	11	12	5	2	16	14	20	22	42

2年で「長安」が多く、3年では「フランク王国」「アッパース朝」が多くなるのは世界史についての知識のひろがり示すものかもしれない。客観的にはどこが繁栄していたかを知るよしもないのだから、その歴史の認識度といつてよいであろう。

◆江戸時代の「レポート」学習

本校の2年生に対しては江戸時代についての「日本史」の学習をまず次のテーマを示し、その1つを選んでレポートにまとめるとともに、授業のさいに発表させる形態をとってみた。グループ発表学習というようなものではなく、「レポート」にまとめることに重きをおいて、「歴史」を自分の身近に感得させようとしたわけである。テーマの選択や決定の仕方とも生徒たちに任せた方が面白かったかもしれないが、一応私の方で設定したテーマ項目の中から気に入ったものを選び、1つの項目を2人で共同で調べてもよいし、1人で行ってもよいこととした。興味関心の多かったのは「切支丹」「元禄の文化」「元禄の政治」「享保の改革」「町人文芸」。興味のない方は「農業生産の発展」「漁村山村のくらし」などである。

- A, 17世紀の始め、日本とヨーロッパ諸国との外交関係はどのような状態だったか。
- B, 日本はなぜ鎖国をするようになったのか。
- C, 切支丹が禁止されるようになったのはなぜか。
- D, 農民はどのように支配され、農民の負担はどのようなものだったか。
- E, 儒教は幕府の政治にどのように利用されたか。
- F, 町々は如何にして成立し、商人はどのように力を持つてきたか。
- G, 商人・職人の生活は、どうだったか。又山村ではどんな

生活が営まれたか。

- H, 街道や商取引の仕組みはどのように整備されたか。
- I, 農業生産はどのように発達してきたか。
- J, 峠の時代といわれる元禄時代にどうして生産活動が高まったか。
- K, 町人たちの意識や物の考え方はどのように変わったか。
- L, 元禄時代の町人文化・文芸・浮世絵はどのように発達したか。
- M, 元禄から享保にかけて幕府の財政はどのようになったか。
- N, 五代将軍綱吉の時とは、どのような政治だったか。
- O, 学問はどのように政治にかかわり、実学はどのように興ったか。
- P, 新井白石はどのような点で前の時代の政治を改めたか。
- Q, 享保の改革とよばれる吉宗の改革の狙いはなんだったか。
- R, 18世紀になって、全国的に大きく農村が変わってきたのはなぜか。
- S, 農村で方々に騒動・越訴などが起こってきたのはなぜか。
- T, 元禄以後、思想や文芸の内容にどのような変わりかたが見られるか。
- U, 田沼時代とよばれる時代にどのような政治が行われたか
- V, 松平定信はどのように政治の改革をおすすめしたか。
- W, 外国船が日本近海に接近してきたのはいつごろか。
- X, 寛政の改革以後、農村にどのような変化がみられたか。
- Y, 化政文化とよばれる江戸の町人文化はどのように成熟したか。
- Z, 文化文政のころ、地方ではどのような生活が営まれ、文芸が起こったか。
- a, 大塩の乱はどのような政治のゆきづまりを反映していたか。
- b, 天保の改革はどのようにすすめられ、何につまづいたか。

江戸時代の学習の途中（その時間のテーマをしらべている者に）発表、コメントさせ、最後に自分の考えも入れてレポートにまとめることにした。そのレポートにまとめられている感想の部分をごここにあげてみようと思ったのは、それなりに歴史認識を持てたという実感がうかがえたからである。

(1) 財政・商業・貨幣について

「この分野には興味もあり、知識としてまとめて知りたかったので調べてみたが、『千両箱』はかなりの重さになるし、『一両』といえば庶民には本当に大金だったのだと実感した。『黄金のジパング』が実在し、日本の資源も昔は豊かだったのは誇らしいが、貿易面での流出は惜しいと思う。」(A. I)

「こうして大商人が着々と力をつけてゆき、三井家の越後屋（現在の三越）は呉服だけでなく金貸しを行ったり、新しい田畑を開いたりして、大金持ちになっていった。松坂屋・大丸などもこの時力を着けてきた。現代の都市が如何に多く城下町を母体として発展してきたかが解って面白かった。」(K. Y)

「福岡市は那珂川を境にして、西側の城下町福岡と東側の港町がいっしょになって発展していった都会ということで、私はこの町調べた。その時気づいたことは城下町は福岡に限らず、15世紀後期に作られ、歴史が比較的新しいせいもあって、町の構造が整然としているのに対し、港町の方は自然に町が出来たせいもあって、その町の伝統が今でも色濃く残って居る様に思えた。しかし、この二つの町を見てもわかるように現在ではそれぞれの町の特徴が薄れていくような気がした」(Y. S)

(2) 五代将軍綱吉の政治

「初めは甘い考えで綱吉を見てきたが、調べ終えた今、将軍職につくべき人物の性格をもっと良く理解し、体をはって誤りを正す人が現れなければいけないと思いました。むしろ弱点はこっちの方にあるのではないかと思った。独裁の綱吉の政治は本当の『文治』とは少し違うような感じがします。私の考えている文治政治とは『人々が学問を奨励されることによって、心にゆとりができ、善悪の判断がつきやすくなり、生活の苦しみも乗り越えてゆく真の精神が生まれてゆくこと』だと考えていました。でも、綱吉の政治はよくいわれるようにやはり『独裁政治』だったように思われます。」(M. N)

「文治政治は確かに学問や礼楽の尊重など、その名にふさわしい点も多いが、大名、人民に対する臨みかたはむしろ武断的であり、恣意的ですらある。」(S. I)

「綱吉はとても権威が強く、すぐに家を潰したりするので、やはり皆、とても恐れていたのだろうか。彼は中途半端なことが嫌いな性格かも知れないが、何事も度を過ぎてしまったように思われる。儒学を学んだり、どんなことにも熱心な人のようなので、理想に向かって物事を進めているうちに、少しずつ現実が狂ってしまったのではないかと思う。」(T. I)

「綱吉は徳川の代々の将軍の中で自分の思い通りのことをした将軍ではないかと思う。初期は堀田正俊が抑えていたが、堀田の死後これを抑える人物がなく、綱吉は思い通りの政治が出来たのではないかと思った。」(M. A)

「もし、調べてレポートにするということがなかったら、綱吉のイメージは、犬公方でお金をじゃんじゃん使った将軍だったということしか残らなかったと思う。少しでも本当の綱吉に近づけたというのは嬉しい。これで将軍も皮をむけば普通の人とかわりがないような気がするのだけだなあ。」(S. O)

「この人は家康以来の財産を殆ど使い込んでしまうのですが、その性格上それは止むを得なかったことかもしれないと思いました。それに、この人がもし『生類憐れみの令』を出さなかったら、これほど後世に名を残さなかったのではないかと思いました。」(H. S)

「ただ子供が欲しい、長く生きたいためにこんなことがよくできたものだ、そのためにどれだけおおくの人が迷惑を受けたかわかっているのだろうか。生類というのは生きているもののことだが、人間は生類のうちに入らないのか。」(T. N)

(3) 元禄時代の社会と文化

「私は初め『こんな本当に調べられるかな?』と不安でしたが、資料を読み進むうちになんだか身近な人に感じました。『近松門左衛門』っていう人の一面に決して自分を驕らない人という気がしました。武家育ちだつて私たちのような一般大衆を見下したり、思い遣りを欠きがちになるんじゃないかなと思っていたから余計にそう思ったかも知れません。なかなかこうして調べる機会がないけれどよい経験になりました。」(M. I)

「私は近松門左衛門などの江戸時代の人々の書いた本などあまり読まない方でした。しかし、この近松門左衛門の本なら読みたい。という気が起こりました。例えば心中物などは現代でもどこか片隅でありそんなことで、今の私でも理解出来る一面があると思います。」(N. I)

「全体を通して今とたいして変わらないもの、逆に信じられないことを沢山見てきたけど、どこにも文化を生みだす人がいて、それは今の時代がモデルになって

いると思う。だからこそ現代まで伝え続けられてきたのでしょ。私たちはこの日本の遺産をいつまでも語り継いで行かなければならないでしょ。」(K. K)

(4) 新井白石の政治について

「白石を尊敬できることと言えば、その当時には珍しく視野が広く、進歩的な考えを持った人ということだ。江戸中心、日本という一つの単位にこだわらずに世界からみた日本という広い見方をしている。政治を司るならば保守的な考えをする人は良くないと思う。又進歩的な考え方だけでも失敗し易いと思う。つまり温古知新が妥当だと思う。ところで、儒学を政治の中に取り入れると言うことは少しおかしいと思う。儒学は道徳的なことで、人間の常識であるのだから、そういうのは現代で『気配りの本』を出版するのと同じではないかと思う。」(M. Y)

「彼の考え方の根本はすべて儒学にある。白石の政策はそれにもとづく仁政をしくことを理想とし、その趣旨をかなまじり文の武家諸法度に示した。僕が彼の政治で胸を打たれるのは裁判の公正に力を注ぎ、越後国村上領の百姓の訴訟には民衆の立場を良く理解した判決を下していることである。」(M. K)

(5) 享保の改革と吉宗

「これらのことをまとめてみると、享保の改革の施策は財政の再建、政治の刷新、産業開発、実学奨励、商業政策であると言える。その結果幕政の引き締めにはなったが、社会の動揺や米価の変動などの経済の混乱を引き起こすことになった。しかし、吉宗に関する本を調べてみると、結果はどうであれ、彼は庶民のこともちゃんと考えていたし、少なくとも自分だけよければいいというただの権力者ではない。異色の将軍だったように思われる。ただ、政治をやっていくにはやむを得ない事もあったのだろう。」(H. M)

「吉宗を評するとき、良く評価するものと、痛烈に批判するものと分かれてしまう。多分それはその両面を吉宗はもっていたからであろう。そして僕はその判断をすることが難しい。然し、吉宗に英主的なイメージを持っていた僕にとっては大きな進歩だとおもう。」(S. T)

「この改革にただ一人逆らったのか尾張の宗春であった。原因としては吉宗の将軍就任の前吉宗と尾張の殿様が上がっていたが尾張侯が急に亡くなり、これは紀州が毒をもったなどと言われたかららしい。結局吉宗の命により宗春は蟄居させられたそう。改革としては財政などは成功したが、商業面などはそうでもなく、全体としてはまあまあだったとおもう。」(J. I)

「前将軍家継やその前の『生類憐み令』なんて法律作った変な将軍に比べると、自ら政治の指揮をとり、

幕府建てなおしに努力した吉宗は偉い人だと思う。恐らく吉宗が歴代将軍の中で最も人気があるのではないかと…などと、TVの『暴れんぼう将軍』を見ながら馬鹿なことを考える今日このごろである。」(Y. S)

「こうして見ると、目安箱を設置して江戸市民のことを知ろうとしたり、倹約や上米などで財政を再建しようとしたけれど、結局はあまり成功したとはいえない。かえって人々から反感をかったこともあるくらいだった。けれども、吉宗は将軍の地位について30年の間にいろんなことをやろうとした。現在吉宗が人気あるのはそんなところではないだろうか。私もそんな所に興味を持ったし、そんなところが好きだ。」(Y. U)

(6) 田沼時代について

「田沼時代を調べ終わり、やはり田沼という悪いイメージが多いと思った。財政再建のため商人と手を結ぶという新しい政策をとったのだが、賄賂により政治が汚くなってしまったのが、田沼の失脚につながったのだと思う。こうして松平定信が登場するわけだが、派手な田沼と質素な定信には差が有り過ぎて、商人はとまどたのではないかと思った。」(M. W)

「田沼政治と言えば賄賂政治とかよく批判されるけれども、もっとよく調べてみると、民衆に喜ばれる政策もやっているし、初めの印象よりは今のほうが意次に好感を持てるようになりました。この時代は天災も多かったし、いろいろ大変だったなあと思います。」

(A. S)

「田沼意次らの事を人は批判していたけれど、意次も財政を向上させるのに一生懸命だったのだと思いました。」(H. N)

(7) 大塩の乱について

「この事件は大塩が元与力であったこと、場所が幕府の直轄領であった事、市中の1/5を焼き払われた事、大塩の主張が幕政の核心をついていた事などから、その政治的影響は大きなものだった。そして貧しい人々を力づける結果となり『生田万の乱』摂津能勢一揆等をたてつづけに起こさせた。命をかけて人々の為に立ち上がった大塩平八郎は、英雄としてまつりあげられた。多くの人々が『大塩様』として敬まった。これらの民衆の声は次第に高まり、幕府をゆりうごかす程になった。」(K. H)

「僕は彼が儒教思想『知行合一』に基づいてこの乱を起こしたのだと思う。このころの農民は現代の農家と比べて、本当に苦しい生活をしていただと思う。農民のエネルギーは本当にすごいものだと思う。」

(H. S)

「私はこの中で武器の大砲・鉄砲などをどうやって手に入れたのかが不思議に思います。武士が一党の中にいたからといえばそれまでですが、そんなに中・下級

武士が手に入れられるわけがないのでは・・・？でも日本史を調べるのって面倒臭いなあと思っていたけど、調べるとなかなか興味がわいてたのしかったです。」(M. I)

「このような時代に自分のこと以外に他人の面倒まで見てやるということはなかなか出来ることじゃないと思う。だから大塩平八郎はたいへんえらい人だとおもう。」(H. S)

「私はこれによって、この時代がどれほどひどい時代であったかがよくわかった。でもすぐに鎮圧されてしまったのが残念でしかたがない。幕府の政治が悪いからしかたなく起こしてしまっただけに・・・」(K. K)

「この乱は一日でおさまったけれども、幕府の無力を暴露した。この乱の起こったのは幕府側にも理由があると思う。幕府は自分たちがよければいいというような感じでやっているから、元幕府の役人さえ乱を起こしたのだと思います。」(K. G)

(8) 天保の改革と諸藩の改革

「この改革は結局失敗におわったが、これは多くの諸藩の見本となり、長州藩・薩摩藩などのようにこれによって新しい政治の方向に一步ふみ出し、結局明治維新を指導する力となり得たものがあつたことは見逃せない。はっきりいってこの改革は水野の独断と偏見で進めていったように見える。人返し令や株仲間の解散など、やはり強引すぎるように思えた。改革の最大の失敗の原因は上知令にあると思った。これによって幕府の力は弱まったからだ。」(H. K)

「天保の改革の失敗、長州や薩摩藩の改革の成功は、藩の主導権を強め、集権化をはかる幕府の産業統制に対抗することになり、それが、倒幕運動にまで発展していったのではないかと思った。これらのことが、後の明治維新に大きな影響を与えていることは、確かではないだろうか。」(K. T)

5 歴史の意識あるいは歴史認識の方向について

歴史の学習がただ年代や人名・歴史事項の暗記でないとすれば、一体何を目ざしたらよいのだろうか。当りまえの様なことをことさらに述べたててみたのは、

(6) 明治維新で日本はどのように変わったか。

- ア、幕府が倒れ、近代国家が成立した
- イ、四民平等、民主主義の基礎が出来た
- ウ、民衆の生活はあまり変わらなかった。
- エ、新政府の権力者の勝手な政治が進められた。
- オ、西洋文明で国民の生活は大変化した
- カ、大部分の人々の考えは変わらない。

13.1	7.7	13.5	17.1	13.3	11.8	14.9	16.7	12.2	17.8	13.6	17.2	13.5	14.6	14.1
23.7	23.1	32.7	12.2	28.9	18.2	17.0	22.2	4.9	13.3	11.4	18.2	20.2	18.2	19.2
5.3	5.8	7.7	7.3	6.7	6.5	14.9	14.8	39.0	31.1	26.1	22.2	16.3	14.6	15.4
18.4	7.7	15.4	19.5	16.7	12.9	19.1	9.3	7.3	15.6	13.6	12.1	15.2	12.5	13.8
31.6	48.1	23.1	29.3	26.7	39.8	25.5	24.1	24.4	13.3	25.0	19.2	25.8	29.2	27.7
7.9	3.8	5.8	7.3	6.7	5.4	6.4	7.4	12.2	6.7	9.1	7.1	7.9	6.3	7.0

常に暗記・記憶ではないと生徒達にも言明しながら、それでは知識理解でない、“何”を生徒たちに学びとらせるかという点になるとはっきりしない。それをもし歴史認識とでも言うとするれば、歴史認識の方向づけこそが歴史教育にとって最大の課題につながるはずである。

歴史について意識をもたせることと、歴史認識との間には若干の質的差異があるとは思いますが、たとえば、「歴史意識」を「①今昔の相違がわかること、②変遷がわかること、③歴史的因果関係が把握される、④時代構造がわかること、⑤歴史の発展がわかること」*⁽¹⁾との段階的な深化の程度でとらえたり、「①歴史的興味・関心、②因果関係、③時事意識、④対比意識、⑤歴史的進歩発展の認識理解、⑥歴史的自覚と意志、⑦歴史的判断と批判」*⁽²⁾等々の諸相でとらえるなどの試みはいろいろなさされているようであるが、「歴史認識」についての明確な尺度や方向づけを示した論文は見当たらない。「小学校段階の歴史教育は豊かな歴史的表象の獲得とイメージにあて、中学校段階で、歴史知識の体系の獲得にあてる」*⁽³⁾とはいっても、その歴史的表象」とか「歴史知識の体系」がどのようなものとしてうけとめ《認識》されるのかが問題なのである。

明治維新についての学習は多分に「近代日本」史の出発点になっている事項であるが、その学習評価のポイントは、それが1868年であることを知ることにあるのか。「ア、ここにおいて封建制度と幕府政治が倒れて、近代国家の礎ができた」ことを教えればよいのか、「イ、四民平等となつて、身分制が打破され、民主政治の基礎的条件ができた」ことを意識させるべきなのか、「ウ、『夜明け前』のように改革にもかかわらず民衆の生活は依然として変わらなかった」ことがわかればよいのか、その新政府の実体は「エ、新政府高官達による専制藩閥政治にはかならない」ことを指摘するほうが重要なのか。「オ、新政府の開明政策によって西洋文明が導入され、国民の生活は大きく変わった」ことが大事なのか。「カ、にもかかわらず大部分の農民の生活は殆ど変わらず、考え方もかわらなかった」か。

ここで歴史が大きく変わったか、変わらなかったかというオ:ウカの認識の尺度とア:イ:エの新政府の評価,にかかわる内容とは別のものである。

そして,それぞれ +と- とに評価はわかる。明治維新を積極的に評価するか(ア.イ.オ)否定的判断のもとにとらえるか(ウ.エ.カ)は政治的イデオロギーにつながる判断である。歴史的判断というのはまだこのほかにいくつかの座標軸があるはずだし,維新の変革をどう考えるのかではなくて,「五箇条の誓文」「五榜」「版籍奉還のさせかた」「神仏分離」「廃藩置県」「四民平等政策」「徴兵令」「地租改正」「殖産興業政策」「郵便・鉄道事業」「明六社」などについて,それぞれ,そこで「どのようにかかわり」「どのように考えるか」「その本質をどうつかんでいるか」すべてについて5~6の選択項目でアンケートし,そのトータルとして,「明治の変革」はどうであったかそ

の「歴史認識」が固まってくるものかもしれない。

だから「歴史教育」のなかには政治的判断が入ってくるし,価値判断も必要である。イデオロギー教育もその意味を認めたいと思う。イデオロギー的色彩を払拭し,政治史的叙述を軽くし,文化史中心に無難に歴史を「昔から人々は努力して現在のすばらしい世の中をつくった」式に美化することには私は反対である。

このごろの「現代っ子」たちが歴史に興味を持たなくなったというのは,教師がいくら熱を入れて「明るい未来」を説こうと「政治的反動」を指摘しようと,あるいはまた「皇国の道」を説こうと,生徒たちはそうした言葉だけの絶叫にほとんど動じないようになってきていることは確かである。きわめて「クール」に事実を受けとめようとしている。

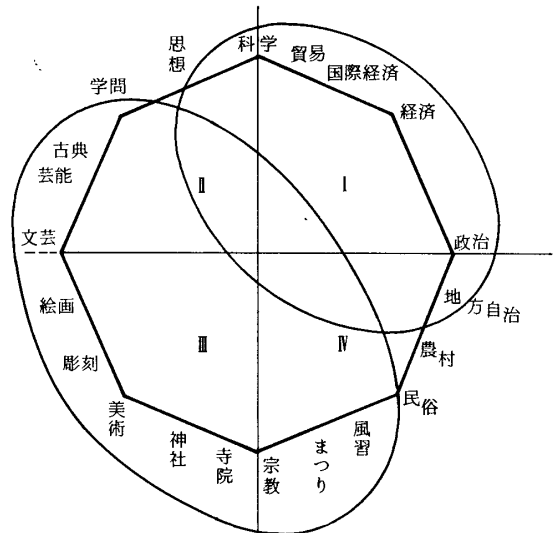
(7) 自由民権運動というのは何か。

- ア. 新政府の急激な改革に対する反対運動
- イ. 薩長藩閥の権力独占に対する士族の対抗運動
- ウ. 憲法制定により国民の権利をという運動
- エ. 官僚の横暴に対する市民の運動
- オ. ヨーロッパの新知識に基づく知識人の政治的要求
- カ. 政府に対する不満分子の過激な暴動
- キ. その他

2.6	5.8	5.8	2.4	4.4	4.3	8.5	11.1	0	6.7	4.5	9.1	4.5	6.8	5.7
18.4	7.7	13.5	12.2	15.5	9.7	6.4	9.3	9.8	11.1	8.0	10.1	11.8	9.9	10.8
52.6	40.4	46.2	48.8	48.9	44.0	44.7	33.3	41.5	31.1	43.2	32.3	46.1	38.0	41.9
7.9	17.3	11.5	4.9	10.0	11.8	6.4	9.3	12.2	33.3	9.1	20.2	9.6	16.1	13.0
5.3	9.6	7.7	12.2	6.7	10.8	14.9	18.5	12.2	13.3	13.6	16.2	10.1	13.5	11.9
7.9	7.7	11.5	12.2	10.0	9.7	8.5	7.4	17.1	2.2	12.5	5.1	11.2	7.3	4.3
2.6	1.9	3.8	2.4	3.3	2.1	4.3	1.9	0	0	2.3	1.0	2.8	1.6	2.2

イデオロギー教育は無効にひとしいことになるが,それはそれでよいのではないかと私は思う。「現代っ子」たちの歴史に対する判断の中には,このごろの「マス・コミ」の「人物像」のとりあげかた,ドラマの中のイメージにひきづられることが多いのは否めない。それを十分に使いながら「こういう面もあったのだよ」というとりあげ方が「授業」の中で出されると反応は一変する。他の社会認識についてもいえることかも知れないけれど,「歴史」についていえば,そうした既成概念の「概念くずし」こそが有効である。

今迄歴史教育特に高校の「日本史」ではそのメインの舞台を第一象限に限って授業を展開させ,その他の内容についてはそれとの関係があるいはつけ足しとして内容構成をしてきた。イデオロギーが歴史教育でとりこまれてきたのもその故であった。新指導要領で示された「文化の総合学習」はⅡ,Ⅲ,Ⅳ象限に歴史の場面を拡げて歴史的関連性を把握させ,かなりひろがりのある歴史認識の形成をはかるものとえる。その限りにおいて新指導要領は評価されると思う。



現代っ子高校生のコールドな歴史意識に対しては,そうした没イデオロギー的歴史把握こそむしろ受け入れられ易いものであろう。冒頭に私は「現代っ子」たちの歴史の無関心・「歴史離れ」現象を指摘したが,そ

れは「今までの歴史の構成については」といわなければならない。

今後の課題は、政治偏向の古き内容構成ではなく、「現代っ子」に受け入れられるようなムードをいかに授業の中に流してゆくかということになりそうである。「シルク・ロード」の画面の底に流れる喜多郎の音楽にあたる何かをである。

なおこの研究については59年度の科学研究費補助金を交付されたことを付記して謝意を表するとともに、調査にあたっては愛知県立松蔭高校の桑名誠一先生は

じめ3名の先生方に御協力いただいた、厚く謝意を表するものである。

- ※(1) 斎藤博「歴史的意識の発達」(信濃教育研究所紀要第19集 昭28(上田薫編「社会科教育史資料より))
- (2) 鈴木行男「小学校社会科における歴史的教材」歴史教育講座(誠文学新光社)
- (3) 山下国幸「小学校歴史教育のカギ」志摩書房